

平成30年度病虫害発生予察予報第1号（4月）

平成30年4月5日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 タバココナジラミ 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	平年並(中央)、やや少(中西)、少(西) 平年並(中央、西)、少(中西) <u>多(西)</u> 、平年並(中央)、少(中西) やや少(県下全域) <u>やや多(中央、西)</u> 、やや少(中西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 、平年並(東、西) <u>多(中央、西)</u> 、 <u>やや多(東)</u> やや少(西)、少(東、中央) <u>やや多(西)</u> 、平年並(東)、やや少(中央)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並(県下全域) <u>多(中西)</u> 、平年並(中央)、やや少(東) <u>多(中西)</u> 、やや少(中央)、少(東) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(東、中西) <u>やや多(中西)</u> 、平年並(東)、やや少(中央)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 少(中央) 平年並(中央) やや少(中央) やや少(中央)

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 3 月 29 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞ 3 月 31 日から 4 月 30 日

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

向こう一ヶ月の平均気温は高い確率 50% です。

週別の気温は 1 週目は高い確率 80% です。2 週目は低い確率 50% です。3 ～ 4 週目は高い確率 50% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	10	40	50	
		降水量	30		40	30
		日照時間	30		30	40

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い			平年並	高い
1 週目	四国地方	10	10	80		
2 週目		50			30	20
3 ～ 4 週目		20	30		50	

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：3 月 31 日（土）～ 4 月 30 日（月）

1 週目：3 月 31 日（土）～ 4 月 6 日（金）

2 週目：4 月 7 日（土）～ 4 月 13 日（金）

3 ～ 4 週目：4 月 14 日（土）～ 4 月 27 日（金）

II 病虫害発生予想

1 抑制、促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：平年並（中央部）、やや少（中西部）、少（西部）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積はいずれの地域も平年以下であった。発病程度は中央部が高かったが、中西部、西部は低かった。

(2) 4 月は平年に比べ晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（中央部、西部）、少（中西部）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積、発病程度

とも平年以下であった。

- (2) 4月は平年に比べ晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量：多（西部）、平年並（中央部）、少（中西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県中央部、西部で発生が見られた。西部では発生面積が多く、発生程度も高かったが、すす病の発生は見られなかった。中央部は発生面積はやや少なく、発生程度も低かった。
- (2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになるため発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量：やや少（県下全域）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積は少なく、発生程度も低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が盛んになるため発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多（中央部、西部）、やや少（中西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積はいずれの地域も平年以下であった。発生程度は西部でやや高かったが、中央部、中西部は平年以下であった。
- (2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになるため発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多（中央部）、平年並（東部、西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。中央部では発生面積が多く、発病程度も高かったが、東部、西部は発生面積、発病程度とも平年以下であった。
- (2) 4月は平年に比べ晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多（中央部、西部）、やや多（東部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。中央部、西部では発生面積が多く、発病程度も高かった。東部は発生面積はやや多かったが発病程度は平年並であった。
- (2) 4月は平年に比べ晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少（西部）、少（東部、中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では西部のみ発生が見られたが、発生面積は少なく、発生程度も平年並であった。
- (2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになるため発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（西部）、平年並（東部）、やや少（中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積、発生程度とも平年以下であった。
- (2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになるため発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（県下全域）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積はいずれの地域も平年並、発病程度は低めであった。
- (2) 4月 は平年に比べ晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多（中西部）、平年並（中央部）、やや少（東部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部で多めであったが、他の地域は平年以下であった。発病程度は中央部、中西部でやや高かったが、東部は低かった。
- (2) 4月 は平年に比べ晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多（中西部）、やや少（中央部）、少（東部）

根 拠

- (1) 巡回調査では中央部、中西部で発生が見られた。発生面積は中西部で多く、中央部はやや少なかったが発病程度はいずれの地域も高かった。
- (2) 4月 は平年に比べ晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多（中央部）、平年並（東部、中西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で見られた。発生面積は中央部で平年並であったが、東部、中西部はやや少なかった。発生程度はいずれの地域も低めであった。
- (2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになるため発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（中西部）、平年並（東部）、やや少（中央部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で見られた。東部、中央部では目立った発生は見られなかった。中西部は発生面積は平年並であったが、発生程度が高かった。

(2)気温の上昇にともない増殖が盛んになるため発生が増加すると考えられる。

対 策

(1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

(1)巡回調査では発生面積が多かった。下葉中心の発生であったが、発病程度も高かった。

(2)4月は平年に比べ晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

(1)巡回調査では発生面積は少なく、発病程度も低かった。

(2)4月は平年に比べ晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) うどんこ病

予 想 発生量：平年並(中央部)

根 拠

(1)巡回調査では発生面積は平年並、発病程度は低かった。

(2)4月は平年に比べ晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) 黄化葉巻病

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

(1) 巡回調査のごく一部で発生が見られた程度であり、発生程度も低かった。

(2) 気温の上昇にともない本病の媒介虫であるタバココナジラミの増殖が盛んになるため発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

(1) 巡回調査では発生面積は少なく、発生程度も低かった。

(2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになるため発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ (こうち農業ネット)

①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報

②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報

③病虫害発生予察技術資料

④新しく問題となっている病虫害 etc.